今週の倫理

2月のテーマ　|　喜働

2024.2.24～3.1

1374号

「心」を込めて働く

「シンギュラリティ」という言葉が話題になっています。

「シンギュラリティ」とは、「特異点」という意味で、コンピュータ技術や生命科学などの進歩、発展によって、技術的な特異点が生じ、これまでの世界とはまったく異なる世界が訪れるという概念です。

特に人工知能技術の加速度的な発展により、私たちの仕事はさらなる効率化や機械への代替が図られ、利便性の向上や労働人口減少への対策が期待されています。

二〇一五年に野村総合研究所が発表した試算では、二〇二〇～三〇年代には日本の労働人口の約四十九パーセントが技術的には人工知能やロボット等により代替できるようになる可能性が高いと推計されました。

しかし、このまま技術が発達したら、全ての仕事を機械が代替する時代がやってくるのでしょうか。

「ディープラーニング」と呼ばれる大量のデータを機械が学習し、文章作成や情報提供に応えてくれる対話型の人工知能「Chat GPT」に「人工知能に代替できない人間の能力は何か」と質問すると、以下のような回答が提示されました。一部要約して紹介します。

「①感情の理解と表現、②創造性とオリジナリティ、③直感的な判断と洞察、④倫理的な判断と価値観の適用、⑤対人関係とコミュニケーション、⑥柔軟性と適応力。これらの能力は複雑で不確かな状況に対処するために必要なものであり、人工知能が完全に代替するのは難しいとされている」

この回答からは、人工知能には人間の意志や感覚、対人関係の分野で課題があることがわかります。それらは各人の心の在り方によって時々刻々と変化するものです。

人間と機械の大きな違いは、作業を行なう際に「心の在り方」が成果に影響を与えることでしょう。機械は指示された作業を、その通りの時間、精度で結果を出します。

しかし、私たち人間は同じ作業でも、前向きな心で取り組んだ時と後ろ向きな心で取り組んだ時とでは、結果として表れる量や質が変わります。前向きに喜んで取り組んだ仕事は、作業時間も実際より短く感じたという経験をした人も多いでしょう。

ではどのような心持で働くと、どのような効果があるのでしょうか。

自分の只今ついている仕事の尊さを悟って、けんめいに働く時、自然に与えられる楽しみ、これは何物にも替えることの出来ぬ人生の喜びである、最高至上の歓喜である。（『万人幸福の栞』第十条）

私たち人間は、仕事に誇りを持つことで、より積極的に仕事に取り組むことができます。そのために「自分の仕事が誰かの役に立っている」という尊さを自覚し、仕事に真心を込めたいものです。その真心こそ、機械に代替できないものであり、その真心によって、仕事の価値や成果を何倍にも高めることができるのです。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局